

※実施方法については、「実施要綱」別紙3「各項目の到達目標、評価、内容」を網羅した内容とすること。

研修カリキュラム(実施要綱別紙1)	実施計画			臨時的代替方法による実施内容		
	カリキュラム名・時間数	実施内容		カリキュラム名・時間数	実施内容	
1 職務の理解 6 時間	1 職務の理解 6 時間	1 職務の理解 6 時間	1 職務の理解 6 時間	1 職務の理解 6 時間	1 職務の理解 6 時間	1 職務の理解 6 時間
	通学 通信 合計			通学 通信 合計		
(1) 多様なサービスの理解	3 0 3	(1) 講義のみ	(1) 講義部分を通信形式(テキストの熟読及び担当講師が作成したレポート課題による学習)で実施します。	0 3 3		
(2) 介護職の仕事内容や働く現場の理解	3 0 3	(2) 講義・演習:視聴覚教材を用い、働く現場についてグループ毎に話し合って発表をします。	(2) 講義及び演習部分を通信形式(テキストの熟読及び担当講師が作成したレポート課題による学習)で実施します。	0 3 3		
2 介護における尊厳の保持・自立支援 9 時間	2 介護における尊厳の保持・自立支援 9 時間	2 介護における尊厳の保持・自立支援 9 時間	2 介護における尊厳の保持・自立支援 9 時間	2 介護における尊厳の保持・自立支援 9 時間	2 介護における尊厳の保持・自立支援 9 時間	2 介護における尊厳の保持・自立支援 9 時間
	通学 通信 合計			通学 通信 合計		
(1) 人権と尊厳を支える介護	0 4 4	(1) 通信講習のみ	(1) 通信講習のみ	0 4 4		
(2) 自立に向けた介護	1.5 3.5 5	(2) 通信講習/講義・演習:介護予防・残存機能の活用をテーマとした事例について、グループで話し合います。	(2) 講義及び演習部分を通信形式(テキストの熟読及び担当講師が作成したレポート課題による学習)で実施します。	0 5 5		
3 介護の基本 6 時間	3 介護の基本 6 時間	3 介護の基本 6 時間	3 介護の基本 6 時間	3 介護の基本 6 時間	3 介護の基本 6 時間	3 介護の基本 6 時間
	通学 通信 合計			通学 通信 合計		
(1) 介護職の役割、専門性と多職種との連携	1.5 0 1.5	(1) 講義のみ	(1) 講義部分を通信形式(テキストの熟読及び担当講師が作成したレポート課題による学習)で実施します。	0 1.5 1.5		
(2) 介護職の職業倫理	0 1.5 1.5	(2) 通信講習のみ	(2) 通信講習のみ	0 1.5 1.5		
(3) 介護における安全の確保とリスクマネジメント	1.5 0 1.5	(3) 講義・演習:事故予防や感染予防等の事例に基づき、介護に関するリスクについてグループで話し合い発表をします。	(3) 講義及び演習部分を通信形式(テキストの熟読及び担当講師が作成したレポート課題による学習)で実施します。	0 1.5 1.5		
(4) 介護職の安全	0 1.5 1.5	(4) 通信講習のみ	(4) 通信講習のみ	0 1.5 1.5		
4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 9 時間	4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 9 時間	4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 9 時間	4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 9 時間	4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 9 時間	4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 9 時間	4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 9 時間
	通学 通信 合計			通学 通信 合計		
(1) 介護保険制度	1.5 1.5 3	(1) 通信講習/講義・演習:介護保険制度の理解を深めるため、申請から支給決定迄のフローチャート作成の実技演習をします。	(1) 講義及び演習部分を通信形式(テキストの熟読及び担当講師が作成したレポート課題による学習)で実施します。	0 3 3		
(2) 障害福祉制度及びその他制度	0 3 3	(2) 通信講習のみ	(2) 通信講習のみ	0 3 3		
(3) 医療との連携とリハビリテーション	0 3 3	(3) 通信講習のみ	(3) 通信講習のみ	0 3 3		
5 介護におけるコミュニケーション技術 6 時間	5 介護におけるコミュニケーション技術 6 時間	5 介護におけるコミュニケーション技術 6 時間	5 介護におけるコミュニケーション技術 6 時間	5 介護におけるコミュニケーション技術 6 時間	5 介護におけるコミュニケーション技術 6 時間	5 介護におけるコミュニケーション技術 6 時間
	通学 通信 合計			通学 通信 合計		
(1) 介護におけるコミュニケーション	0 3 3	(1) 通信講習のみ	(1) 通信講習のみ	0 3 3		
(2) 介護におけるチームのコミュニケーション	3 0 3	(2) 講義・演習:言語・非言語コミュニケーション技術を学ぶため、障害者や認知症に応じた対応方法をグループで話し合います。	(2) 講義及び演習部分を通信形式(テキストの熟読及び担当講師が作成したレポート課題による学習)で実施します。	0 3 3		
6 老化の理解 6 時間	6 老化の理解 6 時間	6 老化の理解 6 時間	6 老化の理解 6 時間	6 老化の理解 6 時間	6 老化の理解 6 時間	6 老化の理解 6 時間
	通学 通信 合計			通学 通信 合計		
(1) 老化に伴うことからのからだの変化と日常	3 0 3	(1) 講義・演習:例題を設定し、その例題に基づいてグループでの話し合い発表をします。	(1) 講義及び演習部分を通信形式(テキストの熟読及び担当講師が作成したレポート課題による学習)で実施します。	0 3 3		
(2) 高齢者と健康	0 3 3	(2) 通信講習のみ	(2) 通信講習のみ	0 3 3		
7 認知症の理解 6 時間	7 認知症の理解 6 時間	7 認知症の理解 6 時間	7 認知症の理解 6 時間	7 認知症の理解 6 時間	7 認知症の理解 6 時間	7 認知症の理解 6 時間
	通学 通信 合計			通学 通信 合計		
(1) 認知症を取り巻く状況	0 1.5 1.5	(1) 通信講習のみ	(1) 通信講習のみ	0 1.5 1.5		
(2) 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	0 1.5 1.5	(2) 通信講習のみ	(2) 通信講習のみ	0 1.5 1.5		
(3) 認知症に伴うことからのからだの変化と日常生活	1.5 0 1.5	(3) 講義のみ	(3) 講義部分を通信形式(テキストの熟読及び担当講師が作成したレポート課題による学習)で実施します。	0 1.5 1.5		
(4) 家族への支援	1.5 0 1.5	(4) 講義・演習:認知症の家族事例を聞き、どのような支援ができるか、グループで話し合い発表をします。	(4) 講義及び演習部分を通信形式(テキストの熟読及び担当講師が作成したレポート課題による学習)で実施します。	0 1.5 1.5		
8 障害の理解 3 時間	8 障害の理解 3 時間	8 障害の理解 3 時間	8 障害の理解 3 時間	8 障害の理解 3 時間	8 障害の理解 3 時間	8 障害の理解 3 時間
	通学 通信 合計			通学 通信 合計		
(1) 障害の基礎的理解	0 0.75 0.75	(1) 通信講習のみ	(1) 通信講習のみ	0 0.75 0.75		
(2) 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	0 0.75 0.75	(2) 通信講習のみ	(2) 通信講習のみ	0 0.75 0.75		
(3) 家族の心理、かかわり支援の理解	1.5 0 1.5	(3) 講義・演習:障害者を持つ家族の気持ちや、家族が抱えるストレスについてグループで話し合って発表をします。	(3) 講義及び演習部分を通信形式(テキストの熟読及び担当講師が作成したレポート課題による学習)で実施します。	0 1.5 1.5		
9 ことからのからだのしくみと生活支援技術 75 時間	9 ことからのからだのしくみと生活支援技術 75 時間	9 ことからのからだのしくみと生活支援技術 75 時間	9 ことからのからだのしくみと生活支援技術 75 時間	9 ことからのからだのしくみと生活支援技術 75 時間	9 ことからのからだのしくみと生活支援技術 75 時間	9 ことからのからだのしくみと生活支援技術 75 時間
ア 基本知識の学習 10~13時間	ア 基本知識の学習 10 時間	ア 基本知識の学習 10 時間	ア 基本知識の学習 10 時間	ア 基本知識の学習 10 時間	ア 基本知識の学習 10 時間	ア 基本知識の学習 10 時間
	通学 通信 合計			通学 通信 合計		
(1) 介護の基本的な考え方	0 2 2	(1) 通信講習のみ	(1) 通信講習のみ	0 2 2		
(2) 介護に関することからのからだのしくみの基礎的理解	0 4 4	(2) 通信講習のみ	(2) 通信講習のみ	0 4 4		
(3) 介護に関することからのからだのしくみの基礎的理解	0 4 4	(3) 通信講習のみ	(3) 通信講習のみ	0 4 4		
イ 生活支援技術の講義・演習 50~55時間	イ 生活支援技術の講義・演習 51 時間	イ 生活支援技術の講義・演習 51 時間	イ 生活支援技術の講義・演習 51 時間	イ 生活支援技術の講義・演習 51 時間	イ 生活支援技術の講義・演習 51 時間	イ 生活支援技術の講義・演習 51 時間
	通学 通信 合計			通学 通信 合計		
(4) 生活と家事	2 0 2	(4) 講義・演習:事例を示し、共に行う清掃、洗濯、調理等を演習します。	(4) 講義及び演習部分を通信形式(テキストの熟読及び担当講師が作成したレポート課題による学習)で実施します。	0 2 2		
(5) 快適な居住環境整備と介護	2 0 2	(5) 講義・演習:事例を示し、家庭内の事故、バリアフリー、福祉用具等を演習します。	(5) 講義及び演習部分を通信形式(テキストの熟読及び担当講師が作成したレポート課題による学習)で実施します。	0 2 2		
(6) 整容に関連したことからのからだのしくみと自立に向けた介護	7.5 0 7.5	(6) 講義・演習:更衣・整容等の介助方法の基本を学び、利用者を想定し、更衣、整容の実技演習をします。	(6) 講義部分を通信形式(テキストの熟読及び担当講師が作成したレポート課題の学習)で、実技演習は同左とします。	3.75 3.75 7.5		
(7) 移動・移乗に関連したことからのからだのしくみと自立に向けた介護	7.5 0 7.5	(7) 講義・演習:移動・移乗の介助方法の基本を学び、利用者を想定し、移動・移乗の実技演習をします。	(7) 講義部分を通信形式(テキストの熟読及び担当講師が作成したレポート課題の学習)で、実技演習は同左とします。	3.75 3.75 7.5		
(8) 食事に関連したことからのからだのしくみと自立に向けた介護	7.5 0 7.5	(8) 講義・演習:食事介助方法の基本を学び、利用者を想定し、食事介助の実技演習をします。	(8) 講義部分を通信形式(テキストの熟読及び担当講師が作成したレポート課題の学習)で、実技演習は同左とします。	3.75 3.75 7.5		
(9) 入浴、清潔保持に関連したことからのからだのしくみと自立に向けた介護	7.5 0 7.5	(9) 講義・演習:入浴・清潔保持の介助方法の基本を学び、利用者を想定した介助方法を考え実技演習をします。	(9) 講義部分を通信形式(テキストの熟読及び担当講師が作成したレポート課題の学習)で、実技演習は同左とします。	3.75 3.75 7.5		
(10) 排泄に関連したことからのからだのしくみと自立に向けた介護	7.5 0 7.5	(10) 講義・演習:排泄介助方法の基本を学び、利用者を想定し、排泄介助の実技演習をします。	(10) 講義部分を通信形式(テキストの熟読及び担当講師が作成したレポート課題の学習)で、実技演習は同左とします。	3.75 3.75 7.5		
(11) 睡眠に関連したことからのからだのしくみと自立に向けた介護	7.5 0 7.5	(11) 講義・演習:利用者を想定した安眠の工夫、環境整備の実技演習をします。	(11) 講義部分を通信形式(テキストの熟読及び担当講師が作成したレポート課題の学習)で、実技演習は同左とします。	3.75 3.75 7.5		
(12) 死にゆく人に関したことからのからだのしくみと終末期介護	0 2 2	(12) 通信講習のみ	(12) 通信講習のみ	0 2 2		

研修カリキュラム(実施要綱別紙1)	実施計画			臨時的代替方法による実施内容				
	カリキュラム名・時間数		実施内容					
講義・演習(実習)								
(実習) <sup>※</sup> (50～55時間中12時間以内)	(実習) <sup>※</sup> 時間		(実習) <sup>※</sup>			(実習) <sup>※</sup>		
介護実習 ○時間	0					0		
ホームヘルプサービス同行訪問 ○時間	0					0		
在宅サービス提供現場見学 ○時間	0					0		
ウ 生活支援技術演習 10～12時間	ウ 生活支援技術演習 14 時間		ウ 生活支援技術演習			ウ 生活支援技術演習 14 時間		
	通学	通信	合計		通学	通信	合計	
(13) 介護過程の基礎的理解	7	0	7	(13) 講義・実技演習:片麻痺または認知症等の事例から、基本的情報の整理、アセスメント、介護計画をグループで立案し、発表します。	3.75	3.25	7	
(14) 総合生活支援技術演習	7	0	7	(14) 講義・実技演習:片麻痺および認知症の2事例を使って、一連の自立に向けた介護過程の展開方法を考え、実技演習します。	3.75	3.25	7	
10 振り返り 4 時間	10 振り返り 4 時間		10 振り返り			10 振り返り 4 時間		
	通学	通信	合計		通学	通信	合計	
(1) 振り返り	2	0	2	(1) 講義・演習:研修や実習を通して学んだことを振り返り、習得したことを確認し、各自発表します。	0	2	2	
(2) 就業への備えと研修修了後における継続的な研修	2	0	2	(2) 講義のみ	0	2	2	
追加カリキュラム 時間								
計 ( 130 時間 )	計 ( 130 時間 )					計 ( 130 時間 )		

※「9こころからのしくみと生活支援技術」内で実習を行う場合、12時間以内とする。